

いなかいどう さんしゅうかいどう
伊那街道(三州街道)

馬による物資の交易
中馬の道

伊那街道は別名三州街道とも呼ばれる。中山道の塩尻宿から分岐し、辰野、伊那、駒ヶ根、飯田と南下、阿智村浪合、平谷、根羽の各村、杣路峠を経て三河足助を経由し、岡崎で東海道に合流する。中馬で荷駄を運ぶ通商の道として、江戸時代には盛んに利用された。現在の国道153号線は、ほぼこの道筋をたどっている。浪合には復元された関所跡がある。



復元された浪合関所跡



information

- **アクセス**
(浪合関所跡)
飯田山本ICから
20km
車→40分
- **所在地**
辰野町～根羽村



1593(文禄2)年、豊臣秀吉により開設。その後、1600(慶長5)年に徳川家康が五街道として木曾街道・甲州道中を開いたため、伊那街道の宿駅は飯田・高遠藩支配となり、その機能も特権も縮小され、脇街道として庶民や商人に利用されることになった。関所が少なく武家の通行もわずかで、古代より沿道に集落が開かれていたことから、旅人には便利であった。

目的地まで付け通しで物資の輸送をする馬のことで、最初は街道周辺に住む農民の駄賃稼ぎとして始まった。川船に対して岡船とも呼ばれ、街道での物資輸送の主な担い手となった。



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)